

最近の糸況と今後の動向

蚕糸砂糖類価格安定事業団 理事 谷 内 昭 正

I 蚕糸業の変遷（50～60年代）

1. 生糸の一元輸入の実施（50年2月）
2. 基準糸価の引上げ（50～55）と引下げ（56.5 59.11 62.2）
3. 需要増進運動の展開
4. 糸価の暴騰・暴落と事業団在庫の増加（58.5 186,763俵）
5. 安定法の改正（60.4）
6. 繭の計画生産（59.5 25%減産）（61.4 10%減産）
7. 期中改正（62.2）による暴落（8,380円）と糸価上昇（62.9 9,950円）
8. 海外事情の変化（62.7）
9. 事業団一般売渡の開始（62.10）
10. 繭減産の定着（62.63）
11. 事業団在庫の大幅減少

II 国内の需要（生糸年度）

年 度	繭 生 産	生糸生産	輸 入	引 渡	在 庫		純 内 需
					一 般	事 業 団	
6 1	41,464 ^t	139,786 ^俵	25,021 ^俵	165,806 ^俵	10,457 ^俵	147,812 ^俵	142,858 ^俵
6 2	34,581	123,690	31,236	207,775	14,894	90,526	186,068
6 3	29,581	107,505	32,091	208,266	17,274	19,476	194,978
前年比	85.5%	86.9%	102.7%	100.2%	116.0%	21.5%	104.5%
元年度	28,000	100,000	55,000	190,000	3,000		
予 想	95.0%			180,000	13,000		
				170,000	23,000		

III 平成元年の動向について

1. 国内景気と絹ブーム（国内・海外）
2. 需給バランスの動向（海外供給）
3. 繭の生産状況
4. 事業団在庫

5. 生糸市場の動きと制度価格
6. 絹産地の状況

Ⅳ 今後の問題点と将来展望

1. 高糸価を維持するための体制確立
安定制度と一元輸入
高附加価値生糸の生産
安定供給による絹業との協力
2. 生産の確保と新技術の開発
繭：(1) 魅力のある養蚕（新規養蚕家）
(2) 製糸業者の積極化（指導の強化）
(3) 依託養蚕（保証制度の導入）
(4) 人工飼料による養蚕
生糸：(1) 製糸技術の維持（後継者育成）
(2) 高度技術の開発
3. 取引流通の合理化
(1) 繭価決定方法（農家経済の安定化）
横神相場は参考価格とし，新しい算出方法の検討
(2) 生糸取引 繭価算定に見合う価格設定
4. 現行諸制度の見直し
業界のスリム化（指導・検定・生糸検査）
5. 需要の拡大